

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、個人の尊厳を大切にしその人らしい生活の場を作っていけるよう支援します。ひとりひとりがホームの主人公としてすこやかに主体的な生活を送れるよう支援します。ということを念頭に置きスタッフ全員が入居者の生活支援に取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及びスタッフは、法人の理念、ユニットの目標についてケア会議、申し送り時等に念頭に置きながら共有し合いながら入居者の事を話すことにより、目標に向けて実践している。	○	施設内研修などで、理念の大切さなどを話し合い事業所の理念に加え、ユニットの目標についても考えその目標を利用者、職員と一緒に書き、壁に貼り付けている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの理念や、実践していること、活動内容等の写真などをたくさん載せ、生活状況など家族の方に報告している。地域のケアマネ、医療機関、行政等へのホームの広報誌等の配布や、地域の人々には、散歩や買物等に出たときなど理解を得て協力して頂けるよう努めています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員の地域雇用も多く、気軽に学生や、小学生、農作業をしている人等とも挨拶、会話をしたり、夏祭りなども開催し、地域の人との交流を入居者の人たちは楽しんでいる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の餅まきやイベント・民生委員の会議への参加、地域のシルバー美術展の出品、見学に積極的に参加している。地域の、幼稚園の子供たちが、訪問し歌や踊りを披露してくれている。	○	小学校の行事などももっと多く参加し、子供達にも入居者の話や昔の遊び等も教えていくことが出来ればと考えています。

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献としてボランティアや実習生の受け入れも積極的に行ない、週に1回介護予防教室を開催し、地域住民が参加できるようにしている。	○	入居者と地域に接する機会をもっと多く持ち、地域の方の認知症の人への理解及び協力をより一層得る事ができるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行ない勉強にサービスの質向上に努めている。評価を活かし改善に向け会議を行ない向上につながる様に取り組んでいます。	○	外部評価実施後においても、サービスに質が向上できるような評価を活かしながら取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに実施しています。実践報告等を積極的に行なっています。又、参加のメンバーの中から地域の行事の情報等の意見交換、独居老人の対応方法等地域包括センターの職員、地域の民生委員、自治会とも話し合い、グループホームとしてはどういう風に交流を持っていくのか話し合いを行なっています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村や、地域包括センターと連携をとり、自施設のケアの方針、ケアする中でのトラブル、介護保険制度について等、常に報告相談することにより、自施設と市町村との透明性を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業や成年後見制度を必要とする入居者が居ない為理解できていないが、必要時に行政とも連絡調整を行いながら、実施していきたい。	○	勉強会を開催し、職員の理解を深めその様な事態が起きたときに対応できるように努力したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への声掛け、コミュニケーション等が雑になり、言葉の虐待とならないよう常に管理者会議、スタッフ会議も含め話し合っている。又、入居者の身体状態を観察し、見過ごすことがないように努めています。		

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、十分に時間をとって入居者及び入居者家族に対して分かりやすく説明しています。又、不安や疑問などを尋ね納得して同意を得るようにしています。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者と職員が十分なコミュニケーションを図り、本人の想いを言い出せられるような環境づくりを心掛けています。又、入居者が不満、苦情等ある時はできるかぎり、入居者の想いを叶えるようにしている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的なホーム便りを作成し、報告しています。ホームでの生活が伝わるよう写真などを載せ報告を行なっている。健康状態などは、定期的に行われている、健康診断の結果を報告している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を開催し意見交換など積極的にコミュニケーションが図れるようにしています。面会時など気軽に家族の方と話が出来るよう十分にコミュニケーションを図り環境づくりに努めています。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図れるようスタッフの意見や提案を聞く機会を設けています。不満なども言い出せにくい部分もあるが、出来るだけ話し合いを持ち、透明性を図っている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月会議を行ない問題が生じてないか話し合いを行なっている。夜間の対応や入居者の状態の応じた柔軟な対応が出来るよう行なっている。家族の生活状況の変化に関しても訪問時、話し合い、意思疎通をはかるようにしている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みのスタッフが対応することは利用者や家族への信頼関係を築くことで重要であると考えている。新しいスタッフが入る場合には入居者及び入居者の家族に紹介をしコミュニケーションを重視した支援を行い混乱を防ぐように心掛けています。</p>		

あいの里悠々(おいし)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡会の研修参加、認知症実務者研修実践者研修、リーダー研修、管理者研修等、段階に応じて積極的に研修に参加をし、現場のケアで活かしていけるようにしている。</p>	<p>日々の、ケアの中での気付きなどが、職員の成長できる機会だと考えている。意見を出し合いスタッフ同志の意欲向上に繋げている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の意見交換会を通じ同じグループホームケアに携わるものとしての意見交換を行なっている。他の良い所を、取り入れより良いケアが出来るように努力している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者がスタッフと常時話し合いの機会を持ち、管理者及びスタッフがストレスを溜めながら仕事をしないようにしている。出来る限り休日の希望を優先できるように努力している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自己申告書及び人事考課表を用いて各職員の意見や要望を運営者が把握できるようにしている。また運営者がヒアリングを行ない向上心を持って仕事に打ち込めるよう支援している。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前訪問などを行ない、今までの生活状態を把握し入所されてからも生活暦を含め入居者の家族とも意見交換を行ない信頼関係が築けるよう工夫している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が困っていること、求めていることなどを理解し共有することにより、家族との信頼関係を築きながら我々に出来ることを提案し協力しながら入居者の方を支えている。</p>	

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の想いや状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行ない改善に向けた支援の提案、適切なサービスを提供できるようにしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学してもらい、安心され納得して頂き家族にも協力頂き職員と馴染みの関係を築きながら、入居できるように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の想いや今迄の生活暦を振り返り、一緒に過ごす事に より多くのことを学びながら相互に支えあい生活している。		職員は、第2の家族だと、思っ てもらえる様な関係を心がけて いる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者のことを一番理解しているのは家族だと考えているので、想いを共有し協力を得ながら生活して頂きスタッフ、家族と一緒に本人を支えて行けるよう工夫している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が入居することにより、家族の負担が軽減され家族に心のゆとりが出来る。随時面会に来て頂き家族関係が薄れず良い関係が続くよう入居時や、訪問時家族に働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、友人が面会に来られたときは、ゆったりとした時間を過ごして頂くような雰囲気づくりをしています。帰られた後、本人から『嬉しかった』ということスタッフに話しかけられたり思い出話をしてくれたりしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う者同士一緒に会話されたり共同作業を行ないスタッフが仲介に入りコミュニケーションが上手く取れるよう工夫している。又、入居者同士の希望により一緒に入浴したりもしています。		

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域の方の利用が多い為、サービスが終了しても夏祭り等に参加して頂いたりしながら、継続的に支えあっている。又、随時相談も受け入れている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日々のかかわりの中で、本人の言動、表情から想いを推測し意志を把握できるように努め、本人にとってどのように暮らすのが一番良いのか家族と共に検討している。	○	『認知症だから何を言っても無理』と決め付けるのではなく、スタッフ全員が入居者ひとりひとりの思いや意向について関心を払い本人の視点にたって今後も進めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の様式を活用しながら、生活暦、環境、サービス利用に至った経緯等を本人や家族の訪問時に聞き取る等して把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしの流れに沿って、本人の状況を総合的に把握し、出来ることを維持しながら、向上できるように支援し、本人のペースで安心して生活できるよう支援している。	○	今持っている力を維持しながら、常に可能性を求め支援をしている。又、その人らしい生活が出来るように声のかけ方に注意を配り、本人の力を発揮しやすい支援をしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で、想いや意見を聞き介護計画に反映させている。スタッフで意見交換、モニタリング、カンファレンスの機会を持ち介護計画作成に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行なっているが、状態が変化した際、本人、家族の要望に応じて見直しを行ない必要時に応じ見直しを行なって介護計画を作成を行なっている。		

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事、排泄等身体状況及び日々の生活状況、本人の言動等の記録を行なっている。スタッフがいつでも確認できるようにしており勤務開始前の確認を義務付け、情報を共有し、日々の支援やプランの見直しに活かしている。	○	チーム内での共有意識、ケアの質を高める為には記録は重要であり、ケアに役立つ記録のとり方の意識を高めた
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算と算定して、訪問看護ステーションと契約を結ぶ事により、重度になり利用者、家族がターミナルケア希望され、対応できる。必要時、主治医の往診を受けるようにしている。又医療機関に、整形外科、内科、皮膚科脳神経外科、歯科必要時に往診してもらえるように、ホームからアプローチしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員をはじめ地域の交番所、消防の方の訪問と、小学生の慰問等をしていただき、地域で協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の前の担当ケアマネジャーと連携を図って意見交換をしている。他のサービスでは本人の体調に応じて、訪問理美容、訪問看護サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を使用している利用者さんは現在居ない為利用していないが、オムツ等の支給、運営推進会議等で地域包括センターと協力している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する主治医となっているが、往診に来てくれる事業所の協力医にお願いするケースが多い。ほとんどの方は入所されるときに協力医を希望される。		

あいの里悠々(おいし)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>急変のあった時など、24時間電話で、相談でき、適切な指示を受けられる。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々を尊重し声を掛ける工夫はしているが、お互い馴れ合いの声掛けをする場面もある。外部に入居者本人のプライバシーに関することは話さないようスタッフ・管理者も含め周知徹底している。記録等の個人情報は鍵のかかる場所に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	共同生活の為、ある程度の我慢はあると思うが、できるだけ声掛けをし自己決定を大切にしています。スタッフの考えを押し付けるのではなく、自分で決めることが出来るような場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先すると束縛につながりかえって混乱を招いてしまう為、一人ひとりの状態や想いに配慮しスタッフが応えられるよう配慮している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じて馴染みの理美容室への利用を支援しているが、家族に協力をお願いしている為、ほとんどの入居者の方は訪問美容を利用されている。カットの希望は自らいうことが出来、入居者本人の希望にあわせたスタイルとなっている。	○ 服なども自分の気に入った服を選んでいる。家族に了解を得て入居者の方と服を買いにいき好みの服を購入してもらるようにしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを日常生活の中で入居者の方に相談する。食事をする際の席は、3グループに分かれており、それぞれスタッフが介入することで会話を楽しみながら食事を行なっている。	以前は、台所に立ち、職員と一緒に調理していたが、最近では、機能の低下により、調理は、できにくくなっている。座ってできることを行ってもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医や家族と話す中で本人の希望に沿いながら好みのものを楽しめるように支援している。食べ過ぎに注意しながらスタッフが見守りを行なっている。	○ 以前は煙草を吸う入居者の方がおられたが現在は入居していない。そういう場面になると、煙草、ライター等スタッフで管理しながら支援をする。

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンをスタッフが把握しており、それに合わせたトイレ誘導、おむつ交換が来ている。パターンを把握し、自尊心を傷つけないようさりげなく声掛けをし、支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は人員配置の都合で昼間の入浴となっており、希望する時間を入居者に聞いたりして支援を行なっている。又、夜間入浴を希望された時は、状況に応じて支援を行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の関わりを大切に活動を増やしたりしながら昼夜逆転しないよう配慮している。夜間眠れないときは、スタッフとお茶を飲んだり、安心の声掛けをする事でリラックスして過ごして頂くようにしている。本人の意思に沿って自由にして頂いている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯、ゴミ捨てなどを行なってくれたり、カラオケや好きな番組を見て日常生活を楽しんでいる。職員とゲームをしたり、歌を歌ったり楽しみを見つけて生活できるよう支援している。	○	ケーキ作りや、梅干作り、ビンゴゲーム、園芸、外食、遠足に行ったりしながら日常生活を支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の小遣いは持って頂いているが、物盗られ妄想など、利用者同士のトラブルもあり、今は持ってもらっていない。買物時など入居者の方にお金を渡し、立替えなどを行ない希望に応じ好きな物を購入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と車でドライブや買物、散歩などを行ない季節感を感じてもらったり、近所の公園へ出掛けたり、入居者の健康状態を配慮しながら負担とならないよう行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族、入居者、スタッフと一緒に花見や海へお弁当を持っていったりしながら外出している。ただ、遠出になると高齢の為、入居者が疲れる事が多く体調が悪化する事があるので、自分達で行ける範囲で行動している。		

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが時間を決め家族に電話を掛けられたり、職員が番号を押し、入居者の希望に応じ日常的に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人を含め一緒におやつを楽しんで頂いたり、カラオケなどにも参加して頂いたり、遠慮のしない様、居心地の良い雰囲気を中心掛けている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてスタッフは十分に理解しており拘束しないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に玄関は施錠していない。入居者の居場所を把握するように努めている。もし、外に出ても他のフロアの職員が声を掛けてくれたり、地域の人が教えてくれたりしながら、自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の意向に沿って入居者本人のプライバシーを尊重しながら支援をしている。又、日中、夜間を通して居室にいる入居者の方には頻繁にさりげなく見回りを行ない状態把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等危険なもの、入居者の服薬等は鍵のかかる場所に保管し、入居者が勝手に触れないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを基本として事故発生時緊急に対応を行っています。事故報告書と共に検討会、申し送り等にてスタッフ全員が問題についてディスカッションを行ない原因を探ることで解決策を考えながら、事故防止及び再発防止に取り組んでいる。		

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の連絡方法などは事務所に連絡網をはり、常に対応できるようにしている。応急手当や救命救急マニュアルがあり、スタッフが確認できる場所に設置している。又、救急隊員による研修会に参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の消防隊員による避難訓練を毎年実施しています。災害時には地域の消防団も協力してくれる連携体制を確保しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時には必ず家族の方にリスクについて理解を得られるように話し合う機会を持っています。入所後も入居者の状態変化により、リスク等が伴う場合には家族の方と連絡・相談し随時、話し合う機会を設けている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ひとりひとりの状況を把握し毎日バイタルチェックを行ない体調の状態把握を行なっている。入居者の状態に変化が見られた場合には、主治医に連絡をし、状態変化に伴い対応方法の指示をして頂いている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に入居者個々の服薬の効果、副作用について情報をもらい、全職員が服薬の内容を把握してもらえるようにしている。間違いのないように一人ひとりの名前と薬を確認し事故の防止に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取の勧めと植物繊維の摂取、体を動かし新陳代謝を良くする様工夫したりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には声掛け見守りにより日常的に口腔ケアの支援は行なっている。就寝前には義歯の洗浄を行なっている。		

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食後チェックし記録をしている。水分は、その都度摂取してもらっている。現在は居ないが、水分摂取等に問題がある場合には記録に残すようにしている。又、水分拒否される入居者には、入居者が飲みやすいスポーツドリンクや紅茶など味がついているものを好まれるので本人の好みに応じて支援をしている。		冷蔵庫に食品マップなどを貼り栄養について、気を付けている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり実践している。日常的には、入居者の手洗い、うがい等を必ず実施し、外部からの感染源を断っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具はそれぞれ消毒を行ない、台所や水廻りの衛生管理、清潔保持は十分に行き届いている。食材も新鮮で安全なものを使用し、入居者が買物に行き買って来た生ものに関してはスタッフが保管し、管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は池のほとりにあり、のどかな雰囲気が入居者の家族、知人等ホームに訪問しやすい環境にある。又、庭には果物や季節の花が植えられており、入居者の方が果物を採取したりという場面が見られる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの品や、入居者が描いた絵を貼ったり、庭に咲いている季節の花を居室やリビングに飾ったりしながら工夫をして生活環境を整えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の入居者の席に個々の写真を貼ったり、玄関ホールで一人で過ごしたり、リビングのソファに座ったり仲の良い友達同士でくつろいで相互に助け合いながら生活している。		

あいの里悠々(おいし)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の方に慣れ親しんだものを持って来ていただくよう依頼している。床には畳を弾いたり使い慣れたタンスなど置かれたりして、在宅で生活していたときの継続性を重視している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後、換気を行ったり、掃除の際には窓を開けたりしています。暑すぎず、寒すぎずをスタッフが配慮しながら夏にはクーラー、冬にはエアコンを活用し快適に過ごして頂き、入居者の状況に応じて調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手すりを設置し入居者は廊下の端から端まで自ら歩いて歩行訓練をしたりしている。リビングルームではみんなと一緒に体操等を行ない、筋力低下を防止している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	掃除・炊事・洗濯物畳みを職員と一緒にしない持っている能力を十分に使っています。困惑したときは、入居者の話を傾聴し、じかんをかけてゆっくり解決するようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには芝生に藤棚とその下にベンチがあり天気の良い日には家族も踏まえゆっくり休憩できるようにしています。ベランダにはプランターに球根やプチトマトを入居者の方と一緒に植えたりしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

あいの里悠々(おいし)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①入居者主体で生活支援を行ない、入居者の表情が生き生きとした生活が送れるよう支援していきたい。
- ②継続的に、入居者を支えていけるようになりたい。
- ③入居者、スタッフが地域との関わり合いを多く持ち、地域貢献できるようなホームを目指していく。